

令和8年度 評価規準

学校名：江戸川区立小岩第一中学校

教科	技術・家庭	学年	3学年					
			単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲的に製作に取り組むことができる。 ○ 機器の保守点検と事故の防止ができる。 ○ 機器の構造についての知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した課題に基づき回路図を表すことができる。 ・工具を適切に用いて、安全・適切に製作することができ、製作品の動作点検及び調整等ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作の過程に対する改善及び修正を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。 ・より安心・安全な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術を工夫し創造していこうとしている。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲的にプログラムを制作している。 ○ 目的や条件に適した計測・制御の情報処理の手順を決定できる。 ○ 簡単なプログラムを作成できる。 ○ 情報処理についての知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全適切なプログラムの制作、及びデバッグ等ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムがよりよいものとなるよう改善及び修正を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 ・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。 		

令和8年度 評価規準

学校名：江戸川区立小岩第一中学校

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の成長と家族・家庭生活	5	○幼児期の心身の発達の特徴を知る。 ○幼児期の言葉の発達について知る。	・自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。	・幼児の心身の発達に合った声かけや生活習慣の習得について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、問題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
遊びを豊かにするおもちゃ作り	5	○幼児の一日の生活は遊びが中心であることを知る。 ○幼児にとっての遊びの意義について考えることができる。 ○幼児の発達に応じた適切なおもちゃについて考え、製作する。 ○製作したおもちゃで幼児と遊ぶことができる。	・幼児の一日の生活が理解している。 ・幼児にとっての遊びの意義について理解している。 ・幼児が興味を持つようなおもちゃを製作している。	・おもちゃ製作を通して、幼児の心身の発達を促すおもちゃの工夫について考えることができる。 ・幼児の気持ちを考えた手作りおもちゃの工夫をしている。	・幼児の遊びを豊かにする遊び道具について考えることができる。 ・おもちゃ製作を通して、幼児に関心を持つことができる。
幼児の生活と家族	6	○幼児の体と運動機能の特徴を中学生と比較して理解する。 ○幼児期の心の発達が、自立への歩みとなる事を理解する。 幼児の生活習慣について知り、生活習慣の習得が自立の基礎となる事を理解する。 ○幼児期の心の発達が、自立への歩みとなる事を理解する。	・自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。 ・幼児の身体の発育や運動機能の発達、言葉、情緒、社会性の特徴について理解している。 ・幼児の心身の発達を支える家族の役割について理解している。 ・幼児の生活習慣の形成の重要性とそれを支える家族の役割、基本的な信頼関係を築くことの大切さを理解している。	・幼児を事故から守るために、どんな配慮が必要か工夫することができる。 ・幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・幼児をいたわる気持ちや幼児の発達に関心をもつことができる。 ・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族、幼児の生活又は地域の生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。
家族・家庭生活についての課題と実践	1	○3年間を通して家庭科で学んだことを踏まえ、今後の生き方やライフプランを考える。	・今まで育ててくれた家族や地域、関わった方へ感謝の気持ちをもち、今後も人との関わりを大切に生活を送ることの大切さを理解している。	・3年間で身に付けた知識を生かし、これからの生活を創造し自立に向けて考えることができる。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族、幼児の生活又は地域の生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。